

キャリアプロジェクト啓

Kei だより

2024

佐野東高校では、3年間を通して「キャリアプロジェクト啓」に取り組みます。

今年度は1, 2年生共に桜美林大学 高大連携コーディネーター今村亮先生の探究ガイダンスによりスタートしました。

◆なぜ探究は重要か？

日常生活や社会に目を向け、①自ら課題を設定し②情報を収集し③整理分析④まとめ発表するという4ステップを繰り返しながら、成長していく学習を探究学習と言います。予測困難な時代において、これからの高校生は、答えを与えられて暗記するという力以上に、主体的に探究する力が求められるようになると今村先生からもお話いただきました。そのため、大学は「探究」する受験生を求めており、受験の形態も大きく変化しています。探究への第一歩として、今村先生から提示いただいた『5歳児にSDGsを伝えるプログラムを考えよう』というテーマで、情報収集や整理分析の仕方について体験的に学びました。



4月10日今村先生による探究ガイダンス

◆地域とのコラボ商品の企画・販売

1学年は、8月31日（土）の葉聖里祭で佐野市商工会議所の協力により、キッチンカーとのコラボレーション商品を企画・販売します。キッチンカーの業者の方々と打ち合わせを繰り返しながら、以下のようなコラボ商品の販売を予定しています。

各クラスの企画及び協力業者

- 1組 さのまる焼き（栗崎鑄工所）
- 2組 黒から揚げ（なるねこ）
- 3組 ワッフル（COCO.）
- 4組 水餃子（T's soup）
- 5組 かき氷＆クレープ（クレープマルシェ）



打ち合わせの様子

◆2学年は進路や興味関心に応じた、機械・自然科学・建築土木・電気電子・まち・国際・教育・こども・栄養・医療の10のゼミで活動し、大学や市役所等地域との連携や協働により、個々の研究を深めます。出前授業や実地研修などを通して、課題をより自分事として捉え、社会の一員としての在り方を考え、自分自身の進路と向き合います。

2024年度 2学年 Kei 出前授業

分野	講師	実施日
機械	足利大学工学部 野田 佳雅 講師	6/21
自然科学	足利大学工学部 加治屋大介 教授	6/21
電気電子	足利大学工学部 西 剛伺 教授	6/21
建築土木	足利大学工学部 仁田 佳宏 教授	6/14
栄養	佐野日本大学短期大学栄養士フィールド 藤田睦 教授	6/7
こども	佐野日本大学短期大学こどもフィールド 加藤茉奈美 講師	6/18
教育	佐野市役所こども政策課 勝呂 祐貴 氏	6/7
まち	佐野市役所総合政策部 高松 慎之輔 氏	6/7
国際	JICA 栃木デスク 田島繁樹 氏	6/14

※医療ゼミは8月6日～8日群馬パース大学の高大連携プログラムに参加。

※9月6日のKeiプロDayでは、各ゼミが大学や病院、幼稚園等での実地研修に参加します。

「キャリアプロジェクト啓」とは？

佐野東高校では、「キャリアプロジェクト啓」と称する探究型キャリア教育に取り組んでいます。生徒一人ひとりが自身の適性や興味関心に応じて、課題を設定し研究を重ねることで、キャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力の育成を目指しています。大学や企業等との連携や協働により、自ら設定した課題をより深めるとともに、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を図ることをねらいとしています。特に「総合的な探究の時間」での一連の活動を“Kei”と呼び、3年間を通じて自分自身の進路に向き合います。

2 学年 Kei 出前授業 感想

●子供のために裏で頑張っている大人がいることや子供の教育に関して、まだまだ課題が残っていることも分かった。働く親が増えたことで学童や子供クラブの需要も高まっている。●子供の目線に立って考えることが大切だった。子供がどう感じているのかを知るのには、自分達では分からない部分もあるので寄り添って考えたいと思った。●食品ロスを減らすために規格外のものを加工して無駄なく作っていることや自然、社会にできるだけ負担をかけずに作るサステナブルフードなどを栃木県が研究していることがよくわかった。研究手段の例を知ることができた。●実際に作ったものを周りの人に食べてもらうなどして、アンケートを取ることで、解決に繋がるかが明確になるとわかりました。●昔は食材が少なくエコとして生まれた料理が今も受け継がれて食べられていることに感動した。スポーツと食事の関連性について自分で実験して答えを出したいと思った。●ただ単に移住者を増やすだけではなく、前に住んでいたけれど地元から離れてしまった人を呼び戻すことで人口の減少を食い止めることができることを知りました。たくさんの方が就職できるような企業の誘致等を行うことで地元で安心して戻れると思いました。●広い目線を持つことは大切だった。大きな目標の下にも小さな目標がたくさん設けられており、まちづくりとは小さな積み重ねだと思った。●佐野市は既に人口減少を止めるためにたくさんの活動をしていると知りました。しかし、20代くらいまでの若者が気になると思うような活動はあまりしていないと思ったため、若者向けの活動を多くするのではないかと感じました。●自分にあった職業を見つけるというのはとても難しいことだと思った。高校生のうちにある程度どの方向に進むかは決めておいたほうがよいと思った。●自分の新たな可能性に気づくことができました。ドローンを体育館で実際に飛ばしてみたときに、自分のやりたい仕事の可能性を感じました。●物事を客観的にとらえて、現地で問題を抱えている人達にとって何が必要か、そして自分たちには何が出来るのか考えていきたい。●「自分の専門性を見つける」という言葉が印象に残りました。国際関係の仕事には様々な種類があるということを知り、自分の得意なものや武器になるものは何かを見つけられるように意識して物事に取り組みたいと思いました。●今までは外国人の方々と関わるという点で県内や国内というより海外に視点を置いてどうコミュニケーションを取ろうかと考えていましたが、お話を聞いて佐野市など実際に自分が住んでいる地域にも外国人の方々が住んで、働いているということに改めて気づきました。身近なところから様々な方と関わることでお互いの文化や国のことを知れる良い機会に繋がるのだと思いました。



◆ 3 学年は進路の実現に向けて、研究テーマに関する知識や自分の考えを表現できることを目指していきます。

①大学等の OC や講座に参加しましょう。②1 学期に学んだ志望理由書や小論文の書き方を復習し、情報収集をしておきましょう。③希望する大学等の入試形態やアドミッションポリシーを研究しましょう。④実際の入試を想定し、自分自身や研究内容について、自分の言葉で発表できるようにしましょう。⇒学校推薦型や総合型選抜においては、これらの実践により、希望する進路の実現を目指すことになります。

◆進路プレゼンテーションを実施します。⇒夏休みの三者面談で、進路実現に向けての決意表明をしてもらいます。



1 学年 職業・学問の扉をひらく

学びに向かう力 自己肯定力
共感力

0 期（1 年次 4～5 月）

◆探究ガイダンス

（桜美林大学 今村 亮先生）

Kei スタート!!

2 学年 将来設計図を描く

学びを継続する力 将来設計力
課題発見・探究力

3 期（2 年次 4～8 月）

◆ゼミの決定（4 月）

◆Kei 出前授業

3 学年 進路実現に向け行動する

学びを活用・共有する力
行動力 コミュニケーション力

完成期（3 年次）

◆入試形態・アドミッションポリシー研究

◆小論文講座

一日大学（6 月） 1 年：大学の学びを知る 2 年：学問を深める 3 年：志望校決定につなげる

1 期（1 年次 6～9 月）

◆佐野市の活性化のために高校生としてできる取組を考え、提案する。

◆学校祭における中間発表

地域とのコラボ商品の企画・販売

2 期（1 年次 10～3 月）

◆大学・企業訪問（県外）

インタビュー等による情報収集
ディスカッションによる情報の共有及び分析

◆Kei 学年発表会

地域の活性化のための具体的な提案

一人ひとりがポスター発表を行う

◆Kei プロジェクト発表会

1, 2 年生全員が発表後、代表者による発表会を実施

（夏休み）オープンキャンパス参加、夢ナビ視聴、各種講座・体験活動への参加

4 期（2 年次 9～11 月）

◆Kei 実地研修

9 月 Kei プロ Day：大学・市役所・病院・幼稚園等での研修

◆中間発表

テーマに関する情報を整理・分析し、自分の考えを発信する

5 期（2 年次 12～3 月）

◆Kei 学年発表会

図や表を用いて、ポスターにまとめる
聞き手に伝わる表現を工夫し、一人ひとりがポスター発表を行う

◆Kei プロジェクト発表会

◆三者面談における進路プレゼンテーション

Kei 集大成！
進路への決意を語る

◆入試

（学校推薦型・総合型・一般選抜）
面接・グループディスカッション
志望理由書・小論文

Kei

2024 年版
3 年間の流れ

❗おわりに ◆足利大学、佐野日本大学短期大学に加え、2024 年群馬パース大学との高大連携協定を締結しました。◆また、本プロジェクトが 2024 年より一般財団法人「三菱みらい育成財団」の助成事業として採択されました。さらなるブラッシュアップに努めていきたいと思います。◆多くの方々と関わることで、新たな視点で社会を見つめ、進路実現に向けての一步を踏み出す力になればと考えます。（文責 早川）



一般財団法人

三菱みらい育成財団